



学校通信

平成29年度 第8号
平成29年12月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

保護者と教師

校長 土屋 信行

今月は、保護者の皆様と私たち教師の関係について考えてみたいと思います。

先月、個人面談がありました。いかがでしたか。子供への今後の指導、かかわり方等に関する有意義な話し合いができましたでしょうか。

私は、この面談の前に、本校の教師に保護者の方との関係づくりにおいて、努力してほしいことを伝えました。そして、その内容について改めて考えてみたのですが、これは相互性のあることなので、教師側だけでなく、保護者の方にも（教師との関係づくりとして）お伝えすることが大切だと思い、今回学校通信で取り上げることにしました。以下、「保護者」と「教師」を入れ替えてお読みください。

～今週末から個人面談が始まります。今年度も後半を迎え、保護者の方（教師）ともいろいろな場面で接し、自分のことをよく理解してくださっていて話しやすい方（教師）、反対にどこかうまくいかず苦手に思うような方（教師）等々、きっといろいろな方（教師）がいらっしゃるでしょう。私たちの気持ちとしては、どの保護者の方（教師）とも 好ましい人間関係を築きたいものですよね。今日は、このことについて考えてみましょう。

まず、自分にとって苦手な保護者の方（教師）というのは、原因として過去に何かがあったから苦手になったということが考えられます。この場合、今も誤解やわだかまりが残っているなら、改めて謝罪したり、丁寧に説明したりして、何とか問題解決への道を切り開きたいものです。

しかしそうではなく、問題は一応収まった、解決したのだけれども、何か小さなしこりがまだ残っている。あるいは、考え方や話し方等に素直に受け入れられないものを感じている。このようなことの方が実際には多いと思われます。こういう場合は、子供たちに、うまくいかない友達関係について指導するときのことを思い出してください。

「親しくする」ところまでは無理でも、これ以上悪い関係にならないように、穏やかな気持ちで過ごせるように努力することが大切です。できるだけ相手のよいところに目を向け、批判的な言い方をせず、丁寧に接していけば、少なくとも今よりは関係性の改善が図れると思います。

いずれにしても、保護者と教師の関係が悪ければ、その間にいる子供たちの健全な成長は望めません。みんなの子供をみんなで育てる意識をしっかりともち、対応に苦慮する保護者の方（教師）との出会いは、自らの教師（保護者）としての力量や人間性を高めるための研修だと思い、努力を重ねてください。

子供たちの健全育成を願う気持ちは、保護者も教師も同じです。本来そこに対立する要素は見い出せません。これを忘れないでほしいと思います。～

